

しあわせ

12 月 号



花を支える枝

枝を支える幹

幹を支える根

根はみえねんだなあ

(相田みつを)

「手を合わす母」

ロシアによるウクライナ侵攻以降、物価高が深刻になり、家計のやりくりで四苦八苦が続くが、さらにイスラム組織ハマスとイスラエルへの戦争によって、世界平和は夢のまた夢という現実が突きつけられた一年となった。

この世は娑婆、いや私自身が「欲も多く、怒り腹立ちそねみねたむ心暇のない」身であり、とても争いのない世界の実現など遠い夢であった。

戦争や事故は後を絶たない。日々の生活を脅かす事件や事故は後を絶たない。

煩惱具足の凡夫の集まりである娑婆世界にまことの平和が成り立つことはないという現実を思い知らされる。

この厳しい現実のただ中に生を受け、欲に振り回されればかりで、確かな知恵を持たない私が生きていくことは、まさに『人生は苦なり』の何ものでもない。

しかし、その人生がそのまま、ようこそこの命有難う。と言える人生に転換される不思議を阿弥陀様が届けて下さった。今年も一年が、「おかげさま」で終わる。

法座案内

△ 報恩講法要 △

十二月 十日 (日) 昼席

十一月 (月) 朝席・昼席

講師 内藤昭文師
(本願寺派司教)

△ 法味の会 △

十二月はお休みです

△ 年末年始の法要 △

除夜会 (大晦日 午後十一時半より)
元旦会 (元旦 午前七時半より)

府中町山田二丁目一五十三
栢原山 龍仙寺
電話(〇八二二八)一四八二



いま報恩講のお参りまったただなかで、原稿を書かせていただきありがとうございます。お参りのなかでよくお話しするのですが、報恩講の「恩」という字は、親鸞聖人がご生涯をかけて大切になさった漢字でした。「因」に「心」と書いて「為されたことを知る」という意味だそうです。新たに何かを作るというのではなく、もう結果がでてきているものがある。目の前に、実を結んでくださっているものがある。その届いているものの意味を知る、為されたことを知る、それが「恩」なのです。言葉を反せば、届いているものの意味を知らない、それを「恩知らず」というのでしょうか。

花を支える枝

枝を支える幹

幹を支える根

根はみえねんだなあ

(相田みつを)

みつをさんらしい詩ですね。花はその花だけ

で咲いているのではない。花は枝に、枝は幹に、そして見えないところで根っこがすべてを支えている。花だけではなく、見えるところだけでなく、見えない根っこのはたらきを知らなければ、一輪の花が咲いている、その本当の美しさは見えないのですね。

先日、ご門徒さんが、ご自分で育てたたくさんのお菊をお寺に搬入してくださいました。毎年、この報恩講の時期に搬入してくださいますが、ご高齡のため、ここ数年「今年が最後です」と仰っています。今年も境内いっぱい立派な菊を飾ってくださいました。以前お話を伺いましたが、ここまで立派な菊を育てるのは本当に大変だそうで、まず土づくりからはじめるのだそうです。ご自宅からやや距離のある揚倉山へ何度も往復をして大量の枯葉を採集されるそうです。そこから土作りをされ、一年かけて、育てていかれるそうですが、水撒きはもちろん、消毒や風雨の

対策、日照条件の対応など、本当にどれほどの手間が尽されているか、はかり知れませんが昨日も幼稚園の園児たちが喜んで観察していました。あの一輪一輪には、そのご門徒さんの一年間のご苦労と一緒に咲いているのでしょうか。いや、そのご門徒さんも、数十年、試行錯誤を繰り返されて、あれほど立派な菊を咲かせるまでになられたのでしょうか。その背景には、ご家族の支えもあったと思います。この一輪に、どれほどのご苦労と心が……。ほんの一瞬ですが、為されたこと、に思いを馳せるだけで、目のまえに咲いているその菊の姿は、まったく別ものに感じられました。そういうえば、今朝の報恩講参りのなかでも、同じような経験をしました。

「お寺さん、これ、小さいんですけど持って帰っていただけますか?」

有難うございますとビニール袋を受けとって中を見ると、柿を入れてくださっていました。

季節ですから目にすることもあるのですが、「この柿、主人がこの家を建てるときに植えた柿の木で、大事にしてたんです。私は手入れできないからあちこち枝を截つたらあまり実がなくなりました。でも今年も実をつけてくれて、主人が喜んでくれると思うんです」お聞きすると、お家を建てられたのは四十数年前で、私がまだ幼稚園の頃でした。お話を聞かせていただくと、ビニール袋のなかに仲良く入っている柿の実ひとつひとつに、ご夫婦の歴史がまつているように見えました。お念仏も同じです。わずか六字のみ名ですが、この一声一声には、いのちのみ親の願いが込められていました。だから親鸞さまは「恩」という字を大切にされたのですね。

根はみえねんだなあ

ともにお念仏いただき、仏さまの願いを仰がせていただきます。届いているものという意味を、聞きひらかせていただきます。